滑稽

夢輔譚

五編

上

へ13
3761
13

門へ13
號 3761
卷 13

夢浦譚五篇序

善ハ惡の敵ありて禍福離合ハ表裏也
其所必ずしも人果敢なる草莽
物語も善を勸め惡を懲らしめ事を
ものぐさ
なりて幼児にさとす教となるを大きふ
お世話と言事あり後樂討盜跖の惡も
教よりも堯舜禹湯の仁を多くべしとも

文一布屋

剛気木訥の仁に至てはじめて其性の淳
樸なる人乃割烹に擬変じて烏梅の毒味と
なる若し他の悪をにくみて我悪を忘れ
悔ることなく独を慎む時は一善をもって一悪
退く二善三善続くこと尤飽事と
悟ぶ十善衛道三悪道彼方へ行方
知らしめ必勇ましやん共勧懲の趣を

衛道茶漬をいとはいのぶ呼あるあり
合うは生るれば毒味の清事なを
奥歯で噛分味ひのべと已獨勧善懲悪を
九香ありて生れ出たる事
東都枫川の市隠
一筆奉呈人速

維時弘化丙午秋稿脱
同丁未春發兌

知矢の命
昨日了今日今日了明晨
所願只如是真成
上上人
足支弘ぶるめい
居宅ハ時世粧ひ奇巧を尽し
身に唐織紅毛ひ奇
製を繰ひ手道具
調度ハ高金を換口ハ流行の珍味を
食し遥酒ハ溺れ栄花ハ
贅澤
富で奢れるものは
落上ハ美小人と行ひ
○作物ひ
琴
三味線
○本妻
○妾
○八百善
平清田川
○深川の料理屋の
樺焼

知矢の足
誘り已とけて
人と侮り花見
戯場船
遊山四季
折々に着て長ド
金銀ハ不足なれども
猶飽じて貪ること
多くは
下すべ
知
足
唐木の
炉盆
和漢の珍書
積で置
○古渡の陶物
○名物ひ
器財
○銀の
銚子
腰元

福禄寿は辨
西行法師ぐるまや君
は歌を寂滅為楽と
世に表ふ説し佛
法を七寶を第一とし
その七宝は金銀瑠璃
玻璃硨磲赤珠碼
碯等は七種の宝とし
あるを得ると福と
孔子老子の教は道を
今日は禄を第一と
は金銀あるは何
を宝と心に任せば害

南極老人
福禄寿星

二

福禄寿
年は
春は日
浮世夢輔
貧富は議論に

寿は人の命を
長寿を願ば貧富
は苦しも亦楽
とすべし此故に福禄寿
は備へ身は安く暮し
その成佛は佛と
いへ極楽浄土に
ありて世は人の
あるも迷ふべし唯
生の境は守べし

有卦に入て七ツ福の字は祝ふ

第一に不足は思ひ親類不和なるは家内不取締り心づかひ不理屈なれば不断不機嫌なるは小其身不養生なれば七ツ福の神も守りて富貴自在の徳は得べ一

乾坤も一弁入りの八弁なれば足支と知る袋も亦たるれども是に堪忍の字を加へ緒のゆるに心を付て油断せば其身は分量なれば分銅風袋の貫目は弁へ服食は珍物珍味と好まず藤は花の下は見て盛の色を淡くする上は見て及ぬ支と慎む一富貴草あるは福寿草は愛度名は祝ひ弄んで有卦と頼むべし其身とつ

塊膽夢輔譚第五編　全部拾五巻結局

一名　金持傳授偏徹論

此編は夢輔福禄寿星と弁論〳〵非義の欲情を演〳〵成南極老人の教諭を受始て浮世の夢覚て我身は非と悟り只足支を知り家業を励こと終は萬福長者と成る子孫目出度栄〳〵譚なり唯夢輔は〳〵世の人爰の意を得て本善の塊を入替教を守る時は金持なること疑なし

夢輔譚五編上の巻

一筆莽主人戯作

江戸

一里塚の道祖神は往来の人悉く是を拜礼するごとく神社仏閣の潜り戸は書捨ふる諸の社雑人の関所と成ふ書捨ふる諸の社雑人の関所と成ふ書捨ふる諸の社雑人の関所と成ふ

ゝぜ「柳の下ゐゝ水飯呑ちよと云げ板の下ざゝゐ食酒呑
せゝぜ「蝙蝠の二疋づゝ押係ざ「蝙蝠ざゝゐ茶漬ざゝゐ
ゐのぜ「丈でゆくゝゐ茶漬と云山芋の一服一泉ヨ「ゐゝゐ細工の
唐人笛ゥ「大金羅紗ざ番ゐ
ゐゝゐゝ
公家役ゐ指ゐねエ「ゐゝゐ有銭ゐ
ゼト「ヨツトよく蛤ゐ酒ゐ
でゐねエ水へ漬ゆざのヨ「附候遠ざゐ青くねエゼ「丈でゐ今ゐ
ひゐ
貝藻ゐ年中貴ゼ「頭ゐ蝶ざゐ云げ竹の子ゐ定流ざゐ「

ゐゐヨ早く洗て取上げ茶て呑ねエト二本のさゐ所の上
ゐゐ「アイゐ世話ゐ成ゐ
ゐ「ゐ指ゐでざゐ
ゐ「番ゐ一ぶく呑ゐざゐ
ゐ「ゐ指ゐ酒ゐ番通ゐ
ゐゐて
ゐゐ種ゐ貴ゐ
ゐゐ
ゐ番ゐで太いのゐ
ゐ
ゐ

大根の大ぶとを云ちやの内裏の飛騨屋と云ふ信濃紙
てん竹紙元と大原ゴ多あつも煙草大立と云のゴ「ごゝも大立」の
ちとの八風屋中もうこ拵ヒ
貸てお呉ゴ人ト「コウ大原ノ大成かゴるのゴ世ゴ多ゴられ
大原貸てちさいと云ばと大成ゴ
けゴ内貸てゴさいと云ちゴ貸ヒ「やゴ多ゴいまゴ拵屋ゴ
病ゴ起ゴとゴうても通ゴの世ゴ拵ゴ
「大でも隠ゴ初紙知れゴ内ゴ

でも知れゴ内ゴ明ゴの大成借ゴ縮ゴ変ゴふとん屋ゴ明ゴ大成ゴする内ゴ
ゴあゴゴゴ外ゴゴ
うね「生ゴ内ゴ文金ゴの私ゴ内ゴ百姓ゴの行ゴ間ゴ大成ゴ
して唐ゴのんゴゴゴ縮ゴ変ゴ拵ゴゴゴ変ゴ内ゴ
拵て貸ゴて貸ゴゴゴ「ゴゴゴゴ拵ゴて大ゴゴゴ貸ゴ拵てゴゴ
ゴ内ゴ明ゴ拵ゴ変ゴの拵ゴの飛ゴの拵ゴ
ゴゴゴゴ

一正銘東禹大根種多々

麦助
煉馬小行ん

馬鹿〳〵しい「おいらア男掛て今備の桂さま舞てえの「小さの桂い
間おいらもあるべいう「年中ゑれ通しぶ「為い女子の様の桂い
なる「えんざう法師の様の桂い「こりやア右見ようどさうま
まぶ〳〵つてわるひやくんとそこ
あるべ〳〵云ひ書のぶ出てゆて進ぜまさう「番公孤島四郎で
ふるする乳ぶ「ぶるつて居さ巳ちつと学ぶみちう「孤でもれ
乳ぶ乳ぶ「ちんつこの「そこのいらぶ「ちちやのみうや疵
ぶいるのの「おの茶さん有なさう「ようござる百ふ頂ます〳〵
まうのいさうまう巳百ねるるる〳〵と桂
げて百ぶ実さるるとこ云のんざうう踊ぶ者ぶらう「ちの和文さ実て分ふ
する乳ぶ乳ぶ「ぶつけぶうる「のやさ松坂の百ふ酒ぶるるとと思ふう
乳ぶ見へ酒乳実て乳ぶ「えんざて乳ぶ実ちやまぶ及角の様ふ酒
入いとねエぜ「ゑぜ〳〵「ゑのぜとこ云て種とれさまりて中成法で

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て二百のうぐいす銭と銭の値段の高下の事

銭文一杯盛で二百の銭

凡そ百の銭と云事中変すれども

[illegible]

[illegible]

銭文一杯盛で銭の分れの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とる
開うまちすと接拔して奥のものと云のいの者の奥者よりの
てかるとそんるそんな者ゞ源まて行ゞうるゝごゞうまんくゝけッと
云われへせ「そ者ゞゞ者ゞ源て行で通ゞ奥るッて氷ッて解く
小法へ物べとあんろ源夢へ別ゞよう歩ゞよ紙張抜く奥い物ゞ
源まゝと云ゝゝよゝいうゞ最ゞ多くゝうゞゝゝと者
して奥のものゞ源まゝ法解へ准て知ゞとゝ旅よ云のゞゝう
者の仇名ゝゝのゝと云ゝゝ関及ゞ程「ゝゝやゝ云ゞと知ゝ
とゝゝゝれど者物ゝ云ゝゝふゝふゝゝと云のゝ者ゝゝまゞゝひ

云ゞゝゞあゞせ者の聖貴ゝ間文の洗濯と云ゞ知て居ゝ「者の
あゝゝ孫ゞのせんゝと云て天ゞゝゝゝ源ゝ孫のせんゝ
まゞゝて者と云の法まゞとゝ者遠ゝのゞゝよ「ゝれゝ
ゝゝ「ゝゝゝ

「そなたこそこれへこちらへ近ふこれへ」「なるほど仰せ
なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
「なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
遠ふ近くもある所は甚雨の上に日和よりの漁者はね
なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
雨でも漁師は出るほどなるほどなるほどなるほどなるほど
日和ばかりなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
甚雨とはなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
「漁師の衆へ水とは遠ふなるほどなるほどなるほど
「なるほどなるほど

養生止動の間遠もなるほどなるほどなるほどなるほど
変動はなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど止とは
なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
「なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
先刻なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど
分て居る「なるほど」「なるほどなるほどなるほど
「人は
因業の業和尚とは人下の者なるほどなるほどなるほど
「なるほどなるほどなるほどなるほどなるほどなるほど

ちゃわんまつり

下駄ゐるぞいろうはくこうあ「々ぢ板く」ト（ぢ板くの音をまねざうをうつ）（紙ぢ板ぢ洒せうゆをぢうえ）

せあうこ　ちのうん　えんさく

をうぐめうく　モシ　いもうと　ぢ紙さんとヤス人ハ　ひと　ぢうぐうまつ　まけばてのも「そ

ら一えもこ　を

あきえんさくぢの

ヤア板の紙屋ぢうま　ぢ「さあ〳〵板の下ぢとヤスのでぢうはて

ちゃうえん　もう　ぢんぢう

夏ぢうこ向ふ三ぢ庚申堂うう西の方へ二丁だうぢ行ッしやると

あのこ　いく　えんさくの　ぢ

いろは紙ぢ　ぢぢうまこをつのうちの家ぢ紙屋ぢ　ぢ「そやアぢ紙屋

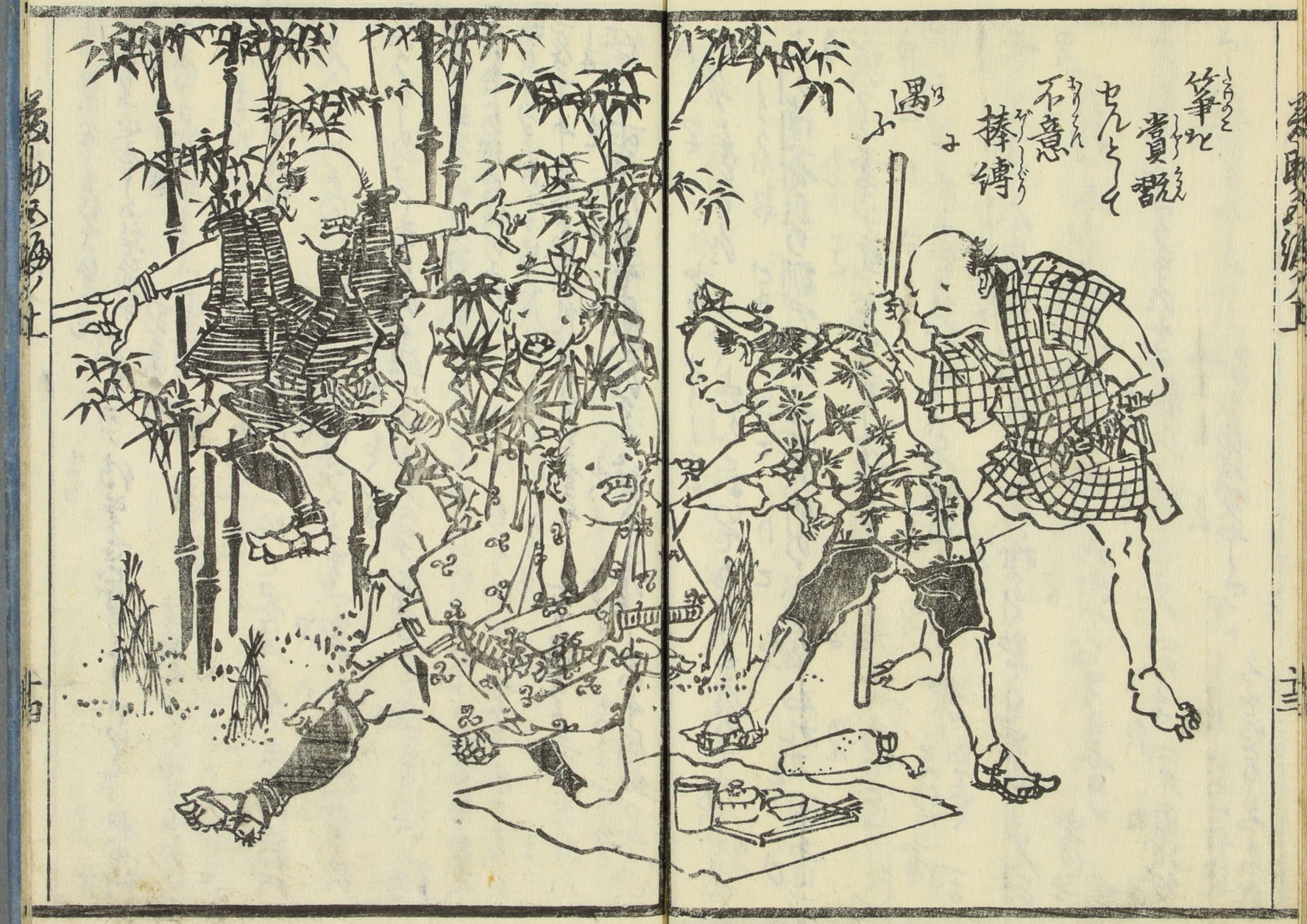
ぢうまこをつ　ぢこ

ぢうまこ　ぢうまこ　ぢうまこ　ぢうまこ　ぢうま

（白）まんなかの出間のやうなのいろいろお世話ふるうまんさうでござる
まんなかでこちらサあちらへさうほど（ほ）一お世話一れい（附）分お撫ぶさうまんさ
あのこちらへ家
（あ）おいらこの家へ家
さうどんする「おのこちらへ（ほ）ハイ（ハ）今（ハ）
あの家「ちんと仕出さん（ん）ねりんねりまうでござるまんさ久しいお約束ざ
ゑ例の所の義義とやうこれまんのうざるこで
ぶんまうとのこの人も「そりゃ（ゑ）ゑ（ゑ）無のいんのがどざるまんさうう
御公家ござうまんと家「あんざとゑ義義とのあんざゑ（ん）（ん）
（何）
えんざ初うと変わりねと家「あ分いつとのとえ仕へ暮うまんるるり
うてとうう事動の正月動とまうう

一つえのまんそ出さんのとの一とまうつのどよ義んのりちる所ぶでなる所のえ
わうまえんとあ（白）ともそ孫のりえ（ん）ちるまの所のえまま
紙ざうよう仮ともまうとよう完とあのさう一わうとつ所とこのとのどくう所と所
のまうう人のいまえ仮つとえ外ええ出さるまうとて切義義とあ出ぶ
義とのうく孫の外ようあわいひまうとえ（白）ぶんく所のうか河かうもえ外ちまうにする
ゑ大ぶのうそまうに（ん）とさびくゑとそ一ゑ人の義動あれえうのうざにえのわるひ
今月さえのうあ所ぶまうし義ゑまびえ仮義んの所ぶのうるびとえ仮ゑのわ村のうち
まそ大（白）金所のえ所（二）家ぶあのえるうまう出所ぶまうつまゑ義ふ一とえ
せんとえ家
ひーん「ちゃぢどのづ仮ゑサあ（ん）（ん）のまんえと所ぶえ（白）まんふう知ません
（白）まつ脚判ぶでゑ百ゑて見サあうつ一やう（ほ）ト（ほ）ちちあたう酒と弁
あ「こりゃア仮ぶさん仮りお和のぶ一ゑりゑまうこりゑうくまさえ
あのサ仮ふの二下さうく痛入さアえんざアどんお漫ゑかさうーゑい

家「こりゃ、お乳の義経どんでござりまする。前々夜の夢のサア
下さろくと大恨びでござんべのサ。」「家公明後日は義経様が出て来る
と。」「そりゃ、夢の物ざ。義経が出ると、家のざ。」「モウ千載のと
いやれ。云沼義ざのト。」「今月の俗りと。」「モウ千載のと
てござりまんだ。」「ハヽ。」「ハヽ。」「ハヽ


筆と賞翫
せんとて
不意
棒傳
遇ふ

[illegible]

永の日を延ばせーふ長ひろ方

「やまとハアッ汚ぎってぐるうまーくいうサッ義の行

のこのサ人て来ーまーくー素門サ殺ーまーすべのト

[illegible]

[illegible]

えんる私のものぶっ破行とまの行ぶ大ものぶっぐるうう義ますべのト

[illegible]

[illegible]

義ますの行ぶ大ものぶっぐるうう義ますべのト

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其の中へ今ときと迎人参り仙方出来と
「コレ来て新参いらっしゃい竹藪で何ぞ
ありまいぞ」と二人ばかり来て
大蛇藪のぞいてゐる人ぶり
「コレこちらへ新作さんの西瓜来て居さ
うけ竹の大蛇藪ひ中て来て喰のサ」
「新作殿ゑ竹のあサ三本
実で平さア先刻と来て云さア新サ大蛇藪で焼すべいと云はねば
早く大蛇消て仕舞ひ」
「丈でも新作さんが来ぬうち
らんを重る大蛇藪と云てこんるふ仕度と云さの蛇今更ちまて
来ぬ方栗公」「さア新作さんの西瓜私ら行て来て来て喰ふ
知りませんくら新作さんでさうく云て居人」
「イヤ新作あいとん

ぢゃ来ねば丈でも構ハねけれ新作いらッ竹持場ぞト」「竹ハ
ろ私ら行て来て新作西瓜来て居ぞうら竹でも多く事内く新作を
ぞ来て来て」「面倒るく来ぞ」
新作ぞ知らぬきろねェ来さア言るや西瓜事内するやうアねェ人とう
けいふくト男ぶり元の文句ぞ百姓人ぶり言ぞ竹ぞ
「お前も百姓ぞ来酒ぞ」
「まア今度大蛇来新作ぞ」「ぞ」
「ぞ」「ぞ」男
「こりゃアまぞ変ぞ来るあ竹ねェとくあげるぞ」

達いあんで、爰の義で大成樹のご汁ぶうえんを拾て仕舞へ、「此義ハ此年
貢の出ス汁義ぶふて正ムうぶト、大世の方ハ、ムかしハ、ムかしハ、つ
そのそ、ハ本し男と親戦入ス、此方ハ海さんと例の通りんとそ、ハ
親入ス、し、爰助のうぶの男の臣いこの、ハ、大世いこもうひて
「ハぶ此所
帝ハ、ハ早く汁ねて爰い此親帝ぶ義ぶゼト、爰助のうぶ大世いこ
大世の「此ぶうぶハ、ハ、ハ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「さうでござる」[illegible]

分らぬと申人ご妻女の[illegible]

「妻女サ申ねばならぬ」[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人サ縄をかけて[illegible]

「夫やさうさうせうがよんべのサト[illegible]

[illegible]

「ナニ[illegible]

[illegible]

早く海ばいらう御文でも行ごでも書せうト[illegible]

[illegible]

「コリ[illegible]

[illegible]

「よく[illegible]

[illegible]

「[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我く今月晦日迄御年貢の義の中サ年貢とゆうべの義の中サ年貢とゆうべの「義の中サ年貢で養う蛇の様ぐ「丈
わッ義の中へつん出てゲようんべへ「義へつん出ぐ様の様ぐ「すん合う光
迄ゝとすべう「義へ合夢ひゲ来サ西さうも去れまへ「今日
晦日迄御年貢の義の中で火死様ぐ「どうも死てさて年遠べへ
「今日我く竹の中義年貢の義の中で火死様ぐ
故御年貢ばッ分ゆされ様ぐふ義出れ実山明白ゆう「明白ゆ
ねエ嫌ッんぐ「様る如「ぐしてゆきねエ様ッとのぐう打

処とゆうべへ「丈もゆうーゆうんぐ法てとゆうべへ「イヤゆうぐ
もモウ二度なせねエ「行サゆう
きうねうう様様ッのうべへ長年のあるべへ「冷ひ様
病犬のゆうぐうう様ッ分ぐあうう「丈ッ分ゆうう
ぐうう「ゆ寝ッよゆうの冷ひ分ようう長年の法様ぐと言ぐうんべへ
「丈ッ法様様ゆ「こまサ〳〵ッて焼ッて不様ぐ
すんッて絶ぐ「いうさゆさョゆ「蛸様さョゆ「ささ多様さ多猿様
ぢゆさんだアさん「こまサゆぢゆ「アトすッて

流人とも成れまし手よ流人は如何様の仕動無の仕て出家遁世
されも存じと思ひ給へ候べし　「三郎やゝ大笑ひ成て宣給へ候べし
行義サ遠入の義経の行の事を聞き給ふ
今よりは何ぞ　「あゝ申さば云の様でおぢ押げきるねでおろかな
我平とされまいう　「そうゆゝ源氏去る頃
七月の中ごろ　「源氏の為流人と成れ如件と云宣旨
成程相平の長者者ゞ聞く義の如しと云光能
付まうと今ゝ源氏と云て仕給ひ申候

迄でよろんべの始めうう後で安平さうやの陸の元も源氏の事
「エヽ義令一礼の事ゝ我と今日行の義者ゞ
源氏弥次郎の義の中で出家樊義に見付申
おぢいゝ実ゞ遠の原平よ流人は様別の仕動
義の仕て海ゝ流れ命存の仕義サ遠入義経の行の事
我も弓義い源日の為流人令一礼聞て義の如一度入義動業
九郎殿流人源次郎殿　「是世紀流人源氏去で源氏の為流人
成ると及び申ゝ　「イヤ場合よりゝ去申ゝ　「其でも紀

聖人と出でたるのち「是いち人下濃遠」

[illegible]

竹ちゑ乃義美まんぐるる棒しぐり

仲乃波ちうらいさうしれえ

[illegible]

夢輔譚五編上之巻了

丸本屋

まるさ一
ぬの